

令和3年度学校自己評価システムシート（国際学院中学校高等学校・中高一貫）

| | |
|--------|----------------------------------|
| 目指す学校像 | 建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成 |
|--------|----------------------------------|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 豊かな人格形成 2 確かな学習指導 3 自主自律的活動の推進 4 新型コロナウイルス感染防止対策の推進 5 広報活動の推進 |
|------|---|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | |
|----------|----|
| 学校評価委員 | 6名 |
| 事務局(教職員) | 8名 |

| 学校自己評価 | | | | | | |
|--------|--|---|---|---|--|---|
| 年度目標 | | | | 年度評価(1月25日現在) | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 次年度への課題と改善策 |
| 1 | ①建学の精神、教育方針に基づいた人格の形成を目指している。 ②国連グローバルコンパクト加盟校として、SDGsの観点を踏まえ教育活動を推進している。 ③ユネスコスクール加盟校として、海外の生徒との親交を深める。また、国際的な奉仕活動を行う。 | ①生徒が常日頃から建学の精神、教育方針に基づいた行動をする。 ②学校行事をSDGsの観点をもち計画・実施する。 ③ユネスコスクール加盟校との生徒同士の交流を実施する。また、自主的な国際貢献の態度を養う。 | ①挨拶の励行、清掃の徹底、時間厳守など、凡事を徹底する指導を、常時実践する。 ②五峯祭などの教育活動公開の機会に、平素学校で行っているSDGs活動を報告するとともにその推進を図る。 ③オンラインを活用して、国際交流を図り、生徒間での親交を深める。また、ネパールへの支援募金活動を継続して行う。 | ①生徒が、学校生活の中で、人格を磨くことができる。 ②生徒がSDGsを観点を理解し、平素の学校生活に活かすことができる。 ③奉仕活動や、ユネスコ活動を積極的にを行い、学んだことを他者に還元できる。 | ①挨拶は、生徒の主体的取り組みとして、先輩から後輩へ受け継がれて継続できている。 ②中学生徒会を中心に、身近なSDGsの学びを道徳の時間や五峯祭などで披露した。 ③オンライン国際交流は、台湾とインドネシアの学校と実施した。計4回の実施となった。奉仕活動としては、生徒会と保護者会がネパール教育支援募金に寄付を行った。 | B SDGsの考えに鑑み、日常の教育活動を実践する。そのためにはまず教職員全員が、グローバルコンパクトの目標をよく理解し、その教育実践機会をとらえて、改善していく必要がある。 |
| 2 | ①新学習指導要領に則り、より深い分野理解を目指して、授業を実践する。 ②特に英語・数学・国語については、多くの時間を割き、本質や核心を得る授業を展開する。また、先取り学習も推進する。 ③検定級取得を推奨するため、放課後講習や個別指導の時間を設けている。 ④タブレット型PC等を活用し、アクティブラーニング型授業を実施する。 | ①平素の授業が、大学進学指導に繋がるよう、シラバスに基づいて実施する。 ②英数国の先取り学習は、内容理解を深めるとともに、生徒の興味関心を高めるものである。 ③生徒の受験意欲を高め、各種検定級取得を推進する。 ④オンラインの機器を有効に活用し、教育活動を行う。 | ①中高一貫部の6年間の目標を踏まえ、年度当初に授業年間計画及び数値目標を作成する。 ②先取り学習は、生徒の内容理解や興味・関心の度合を踏まえたうえで、進度を柔軟に変更しながら展開する。 ③生徒の検定級取得のため、朝学習や放課後講習を実施する。 ④生徒はiPadを所有する。学校はMicrosoft Teamsを活用し、教材提供、学習状況管理などを行う。 | ①生徒が、定期考査や小テストの目標を達成することができる。 ②生徒が、自己の外部模擬試験の目標を達成できる。また、6年間の学びの成果として、難関有名大学への合格者数が増加する。 ③生徒が、自己の各種検定目標級に合格するのみならず、その後、上位級に挑戦している。 ④タブレット型PCを使用する学習で、生徒が自主的な学習に向かっている。 | ※2月現在の実績 【進路実績】 埼玉医科大学(医) 明治大学、学習院大学、日本大学、玉川大学など 【検定】 英語検定準1級取得者 1名 英語検定2級取得者 9名 ①教科担当者同士の連携によりよりよい授業づくりが、実践できている。 ④iPadを使用した学習は、多くの教科で取り入れられ、特に数学、理科、社会の授業で活発に行われている。 | B 今年度は、授業力向上に向けた教員研修が十分でなかったことが反省として挙げられる。次年度は、よりよい授業の実践を目指し、各教科での風通しの良い意見交換を活発に行い、改善を目指す。 |
| 3 | ①基本的な生活習慣を身につけることを第一義とする。特に、規則正しい生活習慣と、平素から学習に励む習慣を身につけることを中心とした指導を行う。 ②自他の生命を尊重する心を育成しなければならない。道徳の授業や特別活動、及び学校行事にてその教育の推進を図る。 | ①規則正しい生活習慣と、学習に経常的に励む習慣を身につける。 ②自他の生命を尊重する心を育む。 ③自主自律の態度を涵養する。 | ①生活記録表や学習時間表によって、生活管理・学習管理を行う。 ②特別授業の企画・実施並びに、学校行事における啓発も推進していく。 ③生徒会活動を活発化し、生徒が学校行事などに参画できるようにする。 | ①各学年の目標とする望ましい生活習慣を身につけることができる。 ②各学年の目標とする学習時間に到達している。 ③生徒会活動が、生徒全体によりよい学校生活に寄与する。 | ①学習時間記録は、毎日担任が確認している。 ②学習時間については、生徒によって差があり、課題が残る。 ③生徒会による学習時間向上の取り組みも成功している。 | B 学習時間の記録は、担任の担当だが、各期の会議ではグラフ化して、関係職員に可視化した。この取り組みを継続し、形骸化しないように生徒指導に生かしていくことが課題である。 |
| 4 | ○新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中で、生徒及び教職員の安全衛生を管理しながら、授業、部活動、学校行事などの教育の質を確保していく。 | ○感染防止に向けた安全衛生管理 ○生徒及び保護者等に対する適切な連絡体制の確保及び情報発信 ○自治体の要請に基づいた適切な対応 | ○感染防止対策マニュアルに基づいた教育活動を実施する。 ○Microsoft Teamsを使用した健康管理や情報発信を行う。 ○感染予防対策・生徒指導の徹底。 ○双方向を前提としたオンライン授業を実施する。 | ○新型コロナウイルス感染防止に向けた取組を教職員、生徒が協力してすることができる。 ○感染対策をしながら、教育活動の質を確保することができる。 ○感染状況に応じて、国や地方自治体の情報を取集し、適切な対応をすることができる。 | 毎日の検温確認から、平素の授業教材迄、Microsoft Teamsで共有できている。双方向型オンライン授業もいつでも行える状態を維持している。 | A 現在では、Microsoft Teamsと保護者メールのアプリが、コロナ禍での主要連絡ツールとなった。一部発展的解消をしながら、次年度の新システム構築による教育環境の向上が課題である。 |
| 5 | ○学校の教育活動をホームページなどで発信していく。学校が取り組んでいる活動を広く地域や受験生に広く知ってもらうことで、それらの活動をさらに推進していく力にしたい。 | ○生徒の活躍や学校の行事等を広報することで、地域住民、学校関係者、受験生保護者などが、学校に関心を持つ。 | ○生徒の教育活動の成果をホームページや学校説明会などで積極的に発信する。 ○教育方針などを発信する。 | ○生徒が教育活動により意欲的に取り組んでいる。 ○本校の教育活動に興味関心を持つ人たちが増える。 | ○年間を通して、生徒の活躍をHPに掲載した。但し、行事が減ったため、更新が滞ることがあった。 ○学校説明会へ来場する児童と保護者が増加した。 | B 地域に愛される学校を目指し、地域との連携を深める活動の場を増やし、教育の成果を披露する機会を多くすることが課題である。 |

| 学校評価 | |
|--|--|
| 実施日 令和4年2月9日 | |
| 評価委員からの意見・要望・評価等 | |
| ○学びを止めないオンライン国際交流は十分できている。次年度は、ここにとどまらず、学びを進化させて、よりよい成果を上げられるよう発展させてほしい。 | |
| ○新学習指導要領を鑑みた十分な授業研究に努め、次年度の教育をより良いものにするべきである。 ○消費者教育等の新たな観点を教育についても、当該学年の特別活動等にて十分に成果をあげてほしい。 | |
| ○基本的生活習慣確立の一環として、学習時間記録を可視しているのは、継続と発展の力になる。遺漏なく進めてほしい。 | |
| ○コロナ対策のみならず、防災・減災の観点を鑑みた必要なシステムの導入とその実践は、危機管理上も称賛できる。進めてほしい。 | |
| ○伊奈町開放講座や地域活動などへの参加は、従来型にこだわらず、コロナ禍でも実施可能なものを模索して、地域との関係を継続していくべきである。 | |

令和3年度学校自己評価システムシート 国際学院中学校高等学校（高等部）

| | |
|--------|----------------------------------|
| 目指す学校像 | 建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成 |
|--------|----------------------------------|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 教育力の向上 2 グローバルネットワーク活動の推進 3 新型コロナウイルス感染症対策の推進 4 教育活動の積極的な発信 |
|------|--|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校評価実施日とは、学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | |
|----------|----|
| 学校評価委員 | 6名 |
| 事務局(教職員) | 8名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | |
|-------------|--|--|--|---|---|--|
| 年 度 目 標 | | | | 年 度 評 価 (1月25日 現在) | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 次年度への課題と改善策 |
| 1 | ○教育活動について、前年度の反省を生かしながら改善をすすめている。 ○校内のICT環境整備、効果的なICTを活用した教育活動をさらに推進していく必要がある。 ○令和4年度の新教育課程の編成を行った。知識基盤社会で活躍できる学習力・人間力養成の観点と新学習指導要領の導入に基づいた「3つの資質・能力」の育成に向け、PDCAサイクルを確立していく。 | ①学習意欲の向上 ②ICTを活用した学習活動の推進 ③生徒・保護者への啓発活動 ④進路実績の向上 | ○日常的な学習指導に加え、長期休業中の講習や補習を通じてそれぞれの状況に合わせた指導をしていく。 ○授業相互見学会や授業アンケートを実施し授業改善を図る。 ○ICTを教育活動の場で効果的に使用した授業実践を行う。 ○ITリテラシーを養成する。 ○最新の入試情報を収集するとともに、個々の生徒に応じた進路指導を考え、実践していく。 | ○学習に対して、真摯に取り組む環境が醸成されたか。 ○それぞれの生徒に応じた主体的で対話的な深い学びができたか。 ○校内ネットワーク環境や通信機器の整備を計画的に進めることができたか。 ○ICTを活用した授業実践が、教員間で情報共有できたか。 ○学校の取組状況を発信し、ICTを使う機会を増やすことができたか。 ○大学への進学率・難関有名大学への合格者数が増加したか。 | ①長期休業中の講習に加え、学習のつまずきがある生徒に対して組織的に補習を行った。また、前期に授業アンケートを実施し、授業改善を図っている。(B) ②全教員がオンライン授業に対応できるようになった。また、ICTを活用した取り組み事例を共有した。(B) ③五峯祭や進路説明会などのライブやオンデマンド配信を行った。(B) ④大学進学率61.4%、難関大学2名合格している。(1月25日現在)(C) | B ○教育課程のチェックは不断にやっけていくと同時に学習内容の先取をしていくように校内で議論を深めていく。 ○GIGAスクール構想について、学習ツールとして課題をしっかりと把握し、生徒教職員への情報リテラシー今日教育を進めていく。さらに効果的な活用を進めていく。 ○進路実現に向けてのロードマップを整理し、数値目標を掲げて可視化できるようにする。 |
| 2 | ○生徒、保護者、教職員とともにもESDやSDGsについての理解が深まり、年々その活動が活発になっている。昨年度はコロナ禍において海外研修が実施できない状況の中、オンラインを使って、マレーシアの学校と交流した。 ○グローバルな視野で、ESDやSDGsを理解するだけでなく、生徒、教員全体が積極的に行動できるようにしていくこと、その成果をどのように見える化していくことが課題である。 | ①ESD、SDGs達成に向けた教育活動の推進 ②地域との連携や海外交流などの推進 | ○日頃の教育活動や学校行事の中でSDGsを意識した取り組みを実践する。 ○ICTを活用したオンライン交流を実施し、異文化理解やグローバルな視点でSDGsについて情報交換、実践をする。 ○地域の開放講座に積極的に参加し、交流を図る。 | ○ESDやSDGsに対しての取り組みの成果が、生徒、教職員で実感することができたか。 ○コロナ禍において、オンライン交流を通じた国際交流の中でESDやSDGsの取組を推進することができたか。 | ①コンタクトレンズの回収、古着回収など例年の取り組みに加え、川上産業株式会社が行っているプラスチックのリサイクル事業に協力し、「プチプチ回収ボックス」を設置した。(A) ②オンラインでインドネシア、台湾の生徒と交流を行った。地域との連携では学校開放講座を陸上競技で実施することができた。(B) ③SDGsの目標達成のため本校の教育活動がどの程度有効かを図るためにアンケート調査を実施し始めた。(B) | B ○ESDやSDGsについて、本校の教育活動の成果を可視化し、生徒と教員が振り返ることができるようにしていく。 ○国際理解教育では、オンラインでの交流を中心にすすめていく一方で、新型コロナウイルスの状況を常に収集し、海外研修についても実施について検討、準備をしていく。 ○伊奈町開放講座、五峯祭を通じて、地域の方と交流する方法を検討していく。 |
| 3 | ○新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中で、生徒及び教職員の安全衛生を管理しながら、授業、部活動、学校行事などの教育の質を確保していく。 ○学校外で過ごす時間も長くなることから予想され、心身の健康を保つためにも家庭での過ごし方など、学校の外での健康管理について啓発活動を行うことが必要である。 | ①感染防止に向けた安全衛生管理 ②教育活動に関する機動的対応 ③生徒及び保護者等に対する適切な連絡体制の確保及び情報発信 ④国の動向に対する適切な対応 | ○学校内外での感染防止対策の実施を徹底する。 ○ICTを活用し、教育活動を止めない準備をしておく。 ○感染リスクの高い場面での指導を行う。 ○感染拡大防止のために、関係機関との連絡体制を確認し、必要な情報を生徒、保護者、教職員に適宜発信する。 ○国や地方自治体からの新しい情報を常に収集し、日々の教育活動の反映する。 | ○新型コロナウイルス感染防止に向けた取組を教職員、生徒が協力し、行動することができたか。 ○感染対策をしながら、教育活動の質を確保することができたか。 ○感染状況に応じて、適切な対応をすることができたか。 | ①定期的な感染対策への呼びかけ、校内の抗菌処理など安全管理を徹底している。(A) ②感染状況や県の対応に応じて、オンライン授業、分散登校などを行った。(A) ③マチコメールを使い、学校の対応や感染状況を周知した。(A) ④Microsoft Teamsを使い、教職員に情報を共有することができている。(A) | A ○コロナ禍において、いかに学びを止めないかという課題を持って取り組んできたが、次年度はそれを一歩進めて、学びを進化させるをキャッチフレーズに感染症対策を引き続き進めながら、学校生活をより充実したものにするために授業や学校行事などで工夫した取り組みを積極的に行っていく。 |
| 4 | ○学校の教育活動をKGSニュースやホームページなどで発信している。しかし、発信する内容や頻度、方法などはまだまだ改善点がある。 ○学校が取り組んでいる活動を広く地域、や在校生、保護者、受験生に広く知ってもらうことで、それらの活動をさらに推進していく力にしたい。 | ①生徒の自己効力感を醸成する。 ②教育の成果を広く地域住民、学校関係者、受験生保護者に周知 | ○生徒の教育活動の成果をホームページや学校説明会などで積極的に発信し、アンケート結果などをフィードバックする。 ○部活動や課外活動の成果を積極的に発信する。 ○テキストのみではなく映像を発信していく。 ○ホームページだけでなくSNSも活用していく。 | ○生徒が教育活動により意欲的に取り組んでいるか。 ○本校の教育活動に興味関心を持つ人たちが増えたか。 | ①生徒の活躍を学校紹介動画やホームページに積極的に発信することで生徒の自己効力感を高めることができた。(A) ②生徒の活動をホームページなどで積極的に発信することができた。更新の頻度、内容ともに昨年度に比較し、充実したものにすることができた結果、1月に行われた高校推薦入試では、受験者数及び単願者数が昨年度と比較し、増やすことができた。(A) | A ○定員の充足は重要な課題であり、その実現に向けて、学校の教育活動の成果をより積極的に発信していく。 ○一人ひとりの生徒の活躍を発信できるように学校行事は必ずホームページなどで発信をしていく。 ○保護者会を通じて、保護者の意見を聞く機会を積極的に設け、その結果から、学校の取り組みの改善を図っていく。 |

| 学 校 評 価 |
|---|
| 実施日 令和4年2月9日 |
| 評価委員からの意見・要望・評価等 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・評価システムに基づき、学校改善がなされている。 ・学習につまずいている生徒に対するの取り組みをしていることは重要である。 ・ICTを活用したオンライン授業のメリットデメリットを把握し、あくまで学習ツールの1つであると考えることが必要であり、ICTのソフト面が重要である。 ・今後はメタ認知的活動を考えていくことが、生徒の意欲を高め、授業改善につながっていく。 ・特別支援教育と消費者教育についてこれからは求められてくる。短期大学の特別講師や行政機関などと連携し、充実させていく。 ・目標達成のためのロードマップを可視化できるようにするとよい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育について、国際学院は伊奈町に拠点を置きながら、グローバルに発展させていることがうかがえた。 ・地域との連携は、コロナ禍においてなかなか厳しいと思うが、ぜひ続けていってほしい。 ・持続可能な教育ESD教育の推進、職業選択にかかわる生き方指導などチェックリストを活用するなどの検討が必要である。 ・学校教育は地域の方や教員と生徒、生徒同士など他者や仲間とともにコミュニケーションをとることが大切である。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも生徒が生き生きと学んでいる様子が分かった。 ・コロナ禍において、ホームルーム、授業や進路活動などオンラインを活用した取り組みが活かされていた。 ・新型コロナウイルスの感染状況の発信してくれたおかげで、保護者としては安心することができた。学校行事は縮小しながら実施したが、さらに生徒同士の横、縦のつながりや交流ができるように工夫してもらいたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生徒保護者への情報発信はメール配信などでうまくいっていることがうかがえる。 ・本校の教育方針に同意する優秀な生徒が、より多く入学するために、生徒募集には力を入れる必要がある。また、入学後の生徒のケア、満足度、少人数の保護者の受け止め方、中途退学者防止への対応等をリサーチして、その結果を授業にどのように反映させていくか。リサーチとビジョンが必要である。 |